

(仮称)くろべ市民交流センター管理運営計画策定委員会 講演会  
「半端ない！図書館“わたしのサードプレイス” ～次世代に向けた機能融合施設の活かし方～」

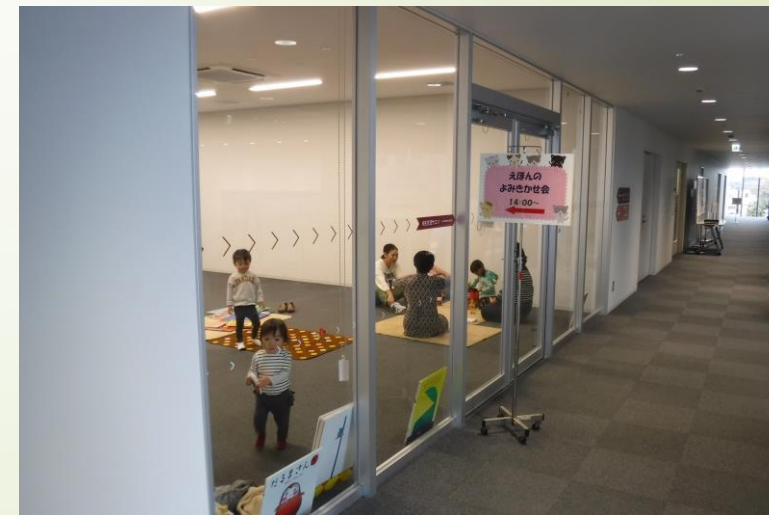
平成30年11月18日(日)14:00～16:00 於 黒部市役所

## 1. 開催趣旨

(仮称)くろべ市民交流センターは、若年層の活躍と人の躍動による黒部の中心市街地再興を目指し居住・都市機能誘導施策として整備されるものであり、図書館を核として、子育て、生涯学習、市民活動支援、ビジネス支援という5機能が融合する施設として、現在、ソフト事業を中心とした管理運営計画策定委員会において議論が進められている。

この講演会では、図書館が核となる複合施設の機能融合のあり方、機能融合から生まれる新しい価値の創出や発展を学び、本市の豊かな発想、私たちの役割、次世代に向けた未来像について、市民の皆さんと議論を深めるとともに、開業に向けて気運醸成を図るため、塩尻市市民交流センター長の経験者である伊東直登氏(松本大学教授)を講師に迎え、機能融合施設についての講演会を開催した。

2. 参加者	一般参加	50名
	策定委員会委員・WS	6名
	読み聞かせコーナー	16名
	講師・事務局	16名
	【合計88名】	



### 3. 講演内容(抜粋)

#### (1) 計画スタート時(行政・市民の縦割り、市民の反対意見)

2

・どこでも“行政の縦割り”“市民の縦割り”があり、結果形ばかりの複合施設にしかっていない。又、「箱もの反対」「本を読まないから図書館はいらない」等の反対意見にも対応していく必要がある。どうしよう？

#### (2) なぜみんなの施設にならないのか

- ・今までのサービスなら今までの人が来るだけ⇒今まで通りの今までの人のための施設。
- ・街ににぎわいを求めるなら今まで来なかった人が来る仕組み⇒新しい利用者獲得には新しいサービスが必要。
- ・相乗効果や機能連携では当たり前(それですら連携できていない)⇒機能融合。

#### (3) 今までの発想を変えなければ機能融合という新しい価値が生まれない

・これまで図書館は本好きの一部の人のための施設であった。これから求められる図書館の役目は、情報をつなぐことであり、新しい利用者ともつながることで、今までにない新しいサービスを提供することができ、図書館が地域に新しい価値を生み出し、活性化することができる。これからの図書館は、地域とつながり、地域と融合していく必要がある。地方にこそ、質の高い図書館が必要。図書館は地域の拠点となることのできる施設である。

#### (4) 図書館ができるビジネス支援

・やったことのない『機能融合』は不安でありイメージしにくい。図書館を核として図書館でできることから始めてはどうか。(「販売先チラシが付帯された“胡蝶蘭展示”」「図書館が勝手に他団体イベントをPRする」などから始める。)

